

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18528

研究課題名（和文）国際化、情報化環境における歴史資料の公共的利活用と管理に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Managing the historic resources in the public interest under the global and information-oriented context

研究代表者

岡崎 敦（Okazaki, Atsushi）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：40194336

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、デジタル環境における情報資源の管理、オープンデータの動向が新たに提示する諸問題を念頭におきながら、公共的な情報管理のあり方を、情報管理機関のミッションの再定義、情報管理専門職養成と関連させて、検討したものである。その際、「公共」という形容詞を冠する人文諸科学の動向を体系的に摂取して、共通の論点を析出するとともに（公共歴史学、公共考古学など）、図書館情報学やアーカイブス学、博物館学等の様々な情報管理学での議論を体系的に検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際化、情報化が進行する世界、社会において、歴史資料を文化遺産として利活用しようという動きが進んでいる。その具体的なあり方は、「公共空間」での市民的合意形成における専門知と市民知の関係の問題として捉え直す必要がある。特定の歴史資料、文化遺産を管理、保存、そして利活用していく「主体」や「責任」がどのようなものであるべきか、刷新されつつあるグローバルな情報環境にどのように適応するのか等の問題について、いま根本的な再検討が必要となっている。

研究成果の概要（英文）：This research aims to redefine public information management in the Digital Era, specifically examines the mission of information management institutions and their professional training, that shall appropriately respond to trends concerning the Open Data. We will take into considerations the discussions undertook in the fields of the Library Information Science, the Archival Science, or the Museology, but also of the Public History, Public Archaeology, and so on.

研究分野：歴史学、人文情報学

キーワード：歴史資料保存・管理 図書館情報学 アーカイブス学 博物館学 公共歴史学 公共考古学 情報管理専門職養成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

国際化、情報化が進行する世界、社会において、歴史資料を文化遺産として利活用しようという動きが進んでいる。我が国でも、文化財保護法改正に関わる審議が進んでいるが、そこでは、従来の「保存」から、現在における積極的な「利活用」に力点が移っている。これに対して、一部の学術団体から文化財の政策的、経済的搾取利用であり、文化財の本質をゆがめるとの危惧の声が上がっている。この対立の構図は、自然科学技術と具体的政策（エネルギー、生命倫理、環境保全など）と同様、「公共空間」での市民的合意形成における専門知と市民知の関係の問題として捉え直さねばならない。そこでは、従来自明と考えられていた「真理」、「事実」、「価値」などが理論的、実践的に問い直されねばならない。

他方で、国際化、情報化の進展のなかで、「当事者」以外の多くの「よそ者」が、特定の文化遺産の価値をめぐって介入する状況は、従来のように国民国家のなかに閉じて議論することを許さない。とりわけ、オープンデータ、オープンアクセスの拡大は、文化遺産、情報資源の国境を越えた流通、共有の動きを加速化させ、新しい可能性を開いている。

このような状況のもとで、特定の歴史資料、文化遺産を管理、保存、そして利活用していく「主体」や「責任」がどのようなものであるべきか、刷新されつつあるグローバルな情報環境にどのように適応するのか等の問題について、いま根本的な再検討が必要となっている。

ここでは、町興しや観光業についての政策研究はもちろん、「学問的価値」に固執して、専門知の優越を主張する学界内部の議論もまた不十分である。特に、情報化の進展は、資料（情報）の管理、利活用について、学術の世界を越えた射程を示している。記憶や資料の価値付けという問題系は、地球大での不平等な依存関係のなかでの人権、環境、民主主義、「開発」等の諸問題にも関連することを認識する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 公共空間における文化遺産の利活用、管理、継承についての理論的基盤を整備する。そこでは、学界のなかで専門家のために算出される「業界知」、特定利害や政策に奉仕する「政策知」、学問のあり方を批判的に検討する「批判知」とは異なる次元で、専門知と市民知の関係を問う「公共知」のあり方を再定義せねばならない。

(2) 文化遺産・情報資源の公共的な利活用、管理、保存を保証するための専門情報管理ミッションを再定義する。また、実際にその業務を担う情報管理専門職のあり方、教育、学位制度、キャリア形成等の諸問題について、業界の垣根を越えて議論する。この際、グローバルに進行している動きと、現場での課題、活動を繋ぐ理論的、実践的視野が必要である。公共的な観点から文化遺産を利活用、管理、継承する努力は、利益のための活用を目指す関係業界や政治行政との健全な関係を再構築することにもつながる。この際、オープンデータの動きを牽引する情報学との連携が不可欠である。情報資源の二次的利活用は、研究のみならず、社会の多様な活動への波及効果が大きく、いっそうの推進が期待される一方、その「公共的」な管理については、十分な検討や制度環境が整備されているとはいいがたい。

3. 研究の方法

(1) 世界における研究、実践の動向の調査、検討を通じて、我が国における情報と問題の認識の共有をはかる。研究集会、シンポジウムを公開で開催する一方、その成果は報告書としてまとめる。研究連携者とともに研究チームを組織しながら、内外の専門研究者との連携を広げ、国際的、領域横断的な相互交流の場を設ける。

(2) 情報管理機関のミッションや専門職養成に関わる諸問題を、世界や日本の動向を念頭に再検討し、具体的な制度の提言を行う。この際、情報管理機関のミッションや業務、そこで働く専門職の位置づけ、キャリア形成問題と、専門職を養成する教育プログラムとを連動させて構想することが重要となる。具体的には、情報学や公共政策を本格的に取り込んだカリキュラム・モデルの構築、研究と連動したインターンシップ連携などの実現が求められる。このため、関連の管理機関や教育機関との連携を進める必要があり、代表者、連携研究者が関係する諸機関と協力体制を組む。

4. 研究成果

(1) 公共空間における文化遺産の利活用、管理、継承についての理論的基盤を整備することを試みた。ゲスト報告書も交えて、研究会やシンポジウムを開催したほか、関係の学界動向を整理した。具体的には、以下のとおりである。

1) キックオフ研究会 2018年9月1日(土)

岡崎敦「資料と公共性 なにが問題か」

市澤哲「公共のなかの人文科学 / 公共性をつくりだす人文科学」

石田栄美「オープンデータの現代的動向」

- 後小路雅弘「コメント アートの世界から」
- 2) シンポジウム「オープンデータと大学」 2019年1月30日(水)九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻と共催
岡崎敦「趣旨説明」
中村覚「東京大学デジタルアーカイブズ構築事業におけるオープンデータに関する取り組み」
- 南山泰之「研究データ管理の動向及びデータ利活用に向けた課題整理」
畑楚晃平「くずし字のオープンデータとその活用」
- 3) シンポジウム「公共歴史学、公共考古学の射程：歴史実践と資料」 2019年4月13日(土)九州西洋史学会と共催
岡崎敦「趣旨説明」
藤川隆男「21世紀の歴史学とパブリック-IMBY/【インターネット・アニメ・モノ・アート・デジタル】・ヒストリー」
村野正景「中米のパブリック考古学と博物館学の動向」
- 4) 研究会「パブリックアーケオロジーの射程：背景、成立、現状」 2019年11月2日(土)
村野正景「趣旨説明」
松田陽「パブリックアーケオロジーの成立と展開」
岡村勝行「欧州現代考古学の近年の動向」
- 5) シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」 2021年4月17日(土)九州西洋史学会と共催
岡崎敦「趣旨説明」
池上大祐「オンデマンド型講義による歴史教育実践 能動的な学びをどう確保するか」
今井宏昌「遠隔がつながる高大連携 コロナ禍におけるグローバルな歴史実践をめざして」
多川孝央「『遠隔』から考え直す学習とコミュニケーション」
- 6) 研究会「公共歴史学」 2021年7月24日(土)
剣持久木「公共史の射程 書物、映像、博物館をめぐる」
- 7) 「総括研究会」 2022年8月27日(土)
清原和之「資料情報管理における公共性と協働 専門職と専門知を再考する」
村野正景「『ソーシャル・キャピタルと博物館 ウイズ・コロナ時代の社会貢献を目指して」
市澤哲「歴史資料、歴史研究と公共圏 プロジェクトを振りかえって」

(2)文化遺産・情報資源の公共的な利活用、管理、保存を保证するための専門情報管理ミッションの再検討を試みた。ゲスト報告者も招聘しながら、図書館情報学、アーカイブズ学、博物館学等の領域における現状と課題を整理する研究会、講演会等を開催する一方、関係の論考を公表した。具体的には、以下のとおりである。

- 1) 研究会「学校資料」 2019年2月10日(日)
和崎光太郎/村野正景「学校資料について」
- 2) アーカイブズ学講演会 2019年12月7日(土)学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻と共催
オリヴィエ・ボンセ「フランスにおけるアーキビスト養成(過去、現在、未来):学問的、社会的および政治的課題」
- 3) シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」 2021年11月27日(土)九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻と共催
岡崎敦「趣旨説明」
大沼太兵衛「デジタル時代に求められる司書の専門性とは」
平野泉「アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか」
渡邊由紀子「大学図書館のミッションと人材養成の課題 現場からのコメント」
- 4) 「情報管理専門職についての検討会」 2022年8月28日(日)
岡崎敦「資料・情報管理専門職養成とキャリア形成 アーキビストを中心に」
渡邊由紀子「図書館領域における専門職養成の現状整理」

(3)毎年度の活動は、その都度、年次活動報告書において公表した。そこでは、前記(2)に掲げた研究会やシンポジウム等のほか、独自の論考を掲載した。具体的には、以下のとおりである。

- 1) 『資料と公共性 2018年度研究成果年次報告書』(2019年3月)
独自論考:中島康比古「資料と公共性、それを支えるコトとヒト」;清原和之「アーカイブズ学と公共歴史学に関する研究動向 「アーカイブ」とその「活用」を問い直す」
- 2) 『資料と公共性 2019年度研究成果年次報告書』(2020年3月)
独自論考:中島康比古「パブリック・アーケオロジー研究会へのコメント」;清原和之「イギリスにおける情報管理専門職(アーキビスト/レコード・マネージャー)の現代的変容」;岡崎敦「フランス共和国におけるアーカイブズおよびアーキビスト養成制度;村野正景「『学校所

在資料」という概念の意義 資料のステークホルダーの把握に向けた概念準備 」

3) 『資料と公共性 2021 年度研究成果年次報告書』(2022 年 3 月)

独自論考：平田哲也「剣持報告へのコメント 学生の視点から公共史を考える」；青山詩乃「パブリック・ヒストリーとは何か」；清原和之「情報管理職シンポジウムへのコメント」

4) 『資料と公共性 2022 年度研究成果年次報告書』(2023 年 3 月)

独自論考：高橋毅「総論『歴史総合』の行く末について」、「歴史総合とはなにか」、「産業革命を核とした「大項目 B 近代化と私たち」の授業計画」；松本大輝「感染症の歴史と現代社会への気づき」；梅田幸乃「歴史教育における評価と思考活動の実践」；石本理彩「アクティブ・ラーニングにおけるデジタル資料の活用について」；野中諒「中村哲著述アーカイブ」における書コンテンツの収集・保存・公開と利活用」

(4) 共同研究の情報は、特設ホームページで逐次公開したほか、4 冊刊行した研究成果報告書は、紙媒体の他、リポジトリでも公表した。研究会、シンポジウム等は、関係の組織や学会等との共催により、原則的に公開で開催し、関係の諸機関や研究者たちとの交流を深めた。これらの多彩な活動の展開により、DX 時代の情報管理の現状を広く見渡して、議論や課題の現状を体系的に整理するとともに、関係学界、業界における認識の共有を深めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 37
2. 論文標題 DX時代の公文書管理 『デジタルWG報告書』に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 33 - 46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清原和之、毎熊浩一、小林准士	4. 巻 19
2. 論文標題 自治体公文書の評価選別に関する現状と課題－公文書館等設置自治体へのアンケート調査から－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会文化論集（島根大学法文学部紀要 社会文化学科編）	6. 最初と最後の頁 47 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村野正景	4. 巻 20
2. 論文標題 学校で資料に出会う、気づく：資源化の実際と今後の活動可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化資源学	6. 最初と最後の頁 72-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦、坂本勇人、平田哲也	4. 巻 159
2. 論文標題 九州大学における西洋史学教育 文学部西洋史学研究室卒業論文の題目の分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 85-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村野正景	4. 巻 234
2. 論文標題 学校博物館の基礎的研究 学校資料の所在する場の理解に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村野正景	4. 巻 13
2. 論文標題 文化遺産を創造する「アートと考古学」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MUC: 京都外大国際文化資料館紀要	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村野正景, 和崎光太郎, 林潤平	4. 巻 8
2. 論文標題 学校内歴史資料室についての調査結果と所見 - 全京都市立小学校を対象としたアンケート調査 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都市学校歴史博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清原和之	4. 巻 34
2. 論文標題 オーストラリア先住民の 記憶の管理 実践から、アーカイブズ学の諸概念を再考する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 15-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清原和之	4. 巻 32
2. 論文標題 島根大学における大学院課程アーカイブズ学分野の紹介 -アーキビスト養成に向けた課題と展望-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 記録と史料	6. 最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 34
2. 論文標題 デジタル時代のアーカイブズ学と文書学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クリオ	6. 最初と最後の頁 119 - 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 158
2. 論文標題 Histoire comparee des Documents d' Archives (Occident/Orient) a l'epoque medievale et moderne : reflexions comparatistes sur la Diplomatie	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 77-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村野正景	4. 巻 33
2. 論文標題 横地石太郎収集の須恵器-京都府立鴨沂高等学校コレクションの基礎的研究-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朱雀	6. 最初と最後の頁 13-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村野正景	4. 巻 45
2. 論文標題 新型コロナウイルスと博物館・学芸員の活動-京都文化博物館を事例に-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代アメリカ学会会報	6. 最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清原和之	4. 巻 33
2. 論文標題 スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウード編、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興、森本祥子訳『アーカイブズ論 記録のちからと現代社会』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清原和之	4. 巻 48
2. 論文標題 菅豊 / 北條勝貴編著『パブリック・ヒストリー入門：開かれた歴史学への挑戦』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州歴史科学	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 984
2. 論文標題 フランス革命とアーカイブズ 近代的文書館の形成と変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 57 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 2018/2019
2. 論文標題 地方自治体における公文書管理の理念と施策 産官学連携によって開催された、あるワークショップの紹介	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州大学附属図書館研究開発室年報	6. 最初と最後の頁 1 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/2327995	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 12
2. 論文標題 「資料と公共性」 - 問題の所在と議論の背景 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 21世紀倫理創成研究	6. 最初と最後の頁 42 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎敦	4. 巻 2017/2018
2. 論文標題 情報管理専門職の人材養成問題：職務標準，メタ情報標準の動向からみるアーキビストのミッション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州大学附属図書館研究開発室年報	6. 最初と最後の頁 1 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/1935823	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件(うち招待講演 9件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 岡崎敦
2. 発表標題 DX時代の公文書管理 『デジタルWG報告書』に寄せて
3. 学会等名 日本アーカイブズ学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清原和之
2. 発表標題 これからの評価選別と電子公文書の管理・保存に向けて
3. 学会等名 令和4年度中国・四国地区文書館等職員連絡会議・講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清原和之
2. 発表標題 島根大学大学院認証アーキビスト養成プログラムの紹介
3. 学会等名 東北大学認証アーキビスト養成コース開設記念シンポジウム -アーカイブズ専門職拡充と大学の役割-
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 メキシコの学校博物館プログラム
3. 学会等名 古代アメリカ学会第15回東日本部会/第13 回西日本部会研究懇談会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 連携事業をどう作るか-博物館のお仕事-
3. 学会等名 第62回まちカフェ「みんなで考える三条通と博物館」都市博物館活動と地域連携
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 海外の学校博物館：メキシコの教育プログラムを中心に
3. 学会等名 第18回学校資料研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 京都文化博物館の取組：重要文化財 旧日本銀行京都支店の保存と活用
3. 学会等名 唐津藩英語学校「耐恒寮」開校150年企画 ウェブシンポジウム 「明治近代建築の全国津々浦々～保存と活用を語る（招待講演）」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 當代社會中的價值創造：京都的博物館活動
3. 学会等名 輔大博物館學研究所X文化部X2021-2022年人才培育計畫X系列講座（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 学校で資料に出会う、気づく：資源化の実際と今後の活動可能性
3. 学会等名 文化資源学会 特別研究会「学校所在の文化資源」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 みち・まちづくりに資する博物館活動は創造可能か
3. 学会等名 「官民連携まちなか再生」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 現代社会に根ざした土器研究－中米におけるパブリック考古学の導入と展開に向けた実践－
3. 学会等名 古代文明・文化資源学研究センター キックオフシンポジウム「古代文明の学際研究と文化資源学」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清原和之・小林准士
2. 発表標題 島根大学における大学院課程アーカイブズ学分野の設置とアーキビスト養成について
3. 学会等名 日本アーカイブズ学会・2021年度第1回研究集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清原和之
2. 発表標題 自治体公文書の評価選別に関する現状と課題
3. 学会等名 島根大学法文学部山陰研究センター・2021年度山陰研究交流会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 畑埜晃平
2. 発表標題 オンライン予測とその応用
3. 学会等名 九州ADSコンソーシアム 2Dayデータサイエンスセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 畑埜晃平
2. 発表標題 オンライン予測理論・時系列予測・最適化
3. 学会等名 AIMAP地域グリッド開発関連技術ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 都市博物館の連携事業-京都文化博物館の事例-
3. 学会等名 京都・大学ミュージアム連携シンポジウム 「コロナ時代の連携 京都・大学ミュージアム連携の10年とその後」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村野正景
2. 発表標題 京都文化博物館と地域コミュニティ-まちづくりを担う博物館-
3. 学会等名 ユネスコ・アジア文化センター文化遺産に関わる国際会議 博物館と地域社会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原和之
2. 発表標題 オーストラリア先住民の 記憶の管理 実践から、アーカイブズ学の諸概念を再考する
3. 学会等名 日本アーカイブズ学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡崎敦
2. 発表標題 フランスにおけるアーキビスト養成の現在
3. 学会等名 2019年度広島史学研究会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡崎敦
2. 発表標題 デジタル時代の文書学とアーカイブズ学：変容のなかにある史料研究と情報管理
3. 学会等名 Tokyo Digital Historyシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡崎敦
2. 発表標題 フランス革命とアーカイブズ 近代的文書館の形成と変容
3. 学会等名 平成30年度九州史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡崎敦
2. 発表標題 西欧中世における文書と「書簡」 近年の研究動向とフランス王文書の例
3. 学会等名 第68回日本西洋史学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 岡崎敦（編）、市沢哲、清原和之、村野正景、渡邊由紀子他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 九州大学大学院人文科学研究院	5. 総ページ数 166
3. 書名 資料と公共性 2022年度研究成果年次報告書	

1. 著者名 岡崎敦、上山あゆみ、石田栄美、富浦洋一、大賀哲、渡邊由紀子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 九州大学大学院人文科学研究院	5. 総ページ数 65
3. 書名 シンポジウム「DX時代の情報管理と人材養成 ライブラリーサイエンス専攻の挑戦」報告書	

1. 著者名 村野正景、山城大督、服部滋樹、蛇谷りえ、日下部一司、上村博、山崎亮、鷲田清一、松井利夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 一般社団法人きりぶえ	5. 総ページ数 100
3. 書名 ザ・サイネンショー	

1. 著者名 M. MURANO, S. Nakamura, T. Adachi, and M. Ogawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University	5. 総ページ数 177
3. 書名 Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilization : the 40th Anniversary of La Entrada Archaeological Project	

1. 著者名 岡崎敦(編)、市澤哲、清原和之、渡邊由紀子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州大学大学院人文科学研究院	5. 総ページ数 108
3. 書名 資料と公共性 2021年度研究成果年次報告書	

1. 著者名 Okazaki Atsushi, Q. Edward Wang, Okamoto Michihiro and Longguo Li	4. 発行年 2022年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 657
3. 書名 Western Historiography in Asia. Circulation, Critique and Comparison	

1. 著者名 岡崎敦・河内祥輔・小口雅史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化	

1. 著者名 村野正景・菊地暁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 408
3. 書名 学校で地域を紡ぐ - 『北白川こども風土記』から -	

1. 著者名 村野正景・嘉幡茂・村上達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 530
3. 書名 メソアメリカ文明ゼミナール	

1. 著者名 村野正景・弘中智子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 さまよえる絵筆 - 東京・京都 戦時下の前衛画家たち	

1. 著者名 村野正景、石川健、板倉有大、梶佐古幸謙、福永将大他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中国書店	5. 総ページ数 1299
3. 書名 持続する志 岩永省三先生退職記念論文集	

1. 著者名 村野正景・International Council of Museum	4. 発行年 2020年
2. 出版社 International Council of Museum	5. 総ページ数 195
3. 書名 City Museums as Cultural Hubs: Past, Present and Future	

1. 著者名 村野正景・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	5. 総ページ数 165
3. 書名 2020年度文化遺産に関わる国際会議 博物館と地域社会	

1. 著者名 岡崎敦（編）、市澤哲、村野正景、清原和之他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学大学院人文科学研究院	5. 総ページ数 120
3. 書名 資料と公共性 2019年度研究成果年次報告書	

1. 著者名 岡崎敦（編）、市澤哲、後小路雅弘、畑埜晃平、村野正景、清原和之他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学大学院人文科学研究院	5. 総ページ数 100
3. 書名 資料と公共性：2018年度研究成果年次報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

資料と公共性 2022年度研究成果年次報告書 https://doi.org/10.15017/6770679
資料と公共性 2021年度研究成果年次報告書 https://doi.org/10.15017/4772780
資料と公共性 2019年度研究成果年次報告書 https://doi.org/10.15017/2557155
資料と公共性 2018年度研究成果年次報告書 https://doi.org/10.15017/2230688
「資料と公共性」研究会HP https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~his_west/shiryotokokoyosei.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	市澤 哲 (Ichizawa Tetsu) (30251862)	神戸大学・人文科学研究科(研究院)・教授 (14501)	
連携研究者	後小路 雅弘 (Ushiroshoji Masahiro) (50359931)	九州大学・人文科学研究科(研究院)・特任研究員 (17102)	
連携研究者	畑埜 晃平 (Hatano Kohei) (60404026)	九州大学・システム情報科学研究院・教授 (17102)	
連携研究者	村野 正景 (Murano Masakage) (50566205)	公立小松大学・サステイナブルシステム科学研究科・特任准教授 (23304)	
連携研究者	清原 和之 (Kiyohara Kazuyuki) (10757264)	島根大学・人間社会科学研究科・准教授 (15201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------